なつかしい「斜里駅」～昭和 40 年代前半～のジオラマ完成

12 月から 1 月のロビー展に合わせて作成した N ゲージのジオラマが完成し、本館一階の交通コーナーに常設展示しました。当時の斜里駅を復元し、釧網本線の混合列車と根北線のレールバスを、ボタン操作で走らせることができます。大人の方にはちょっと懐かしい斜里駅の雰囲気を、お子さんには動く鉄道模型を“目線を下げて”楽しんでいただきたいです。農作業をする人、駅で働く人、列車を待つお客さんなど、細かい所もお見逃しなく。ご来館、お待ちしています。（宮内）

「タンネウシ」No.181(2006 年 12 月発行の 2007 年 1 月号) で紹介された「世界遺産・知床がわかる本」を読んでみたので、簡単すぎて失礼かも知れませんが 3 点ほど感想を述べたいと思います。

1．全体的なこととして、この本は新書判・196 頁なので誰の手にもなじみやすく、書名のとおり知床についていろいろなことが書かれていますので、まず概観して「知床のすばらしさ」や「世界遺産としての意義」などを理解することができます。そういう意味から、斜里町・羅臼町の全家庭が 1 冊ずつ持たれたら、両町以外の人たち、知床を訪れる人たちにいろいろ説明する際にはきっと役立つことと思いました。

ジュニア年代すなわち高校生以上の人を読者として考えている内容・書き方なので、ある程度のむずかしさはありますから、質問したいことがあったら著者の中川さんにだけではなく、知床博物館・知床自然センター・羅臼町ビジターセンターの職員の方たちにも尋ねてみてはどうでしょうか？そうなればこの本は“活き々々した教科書”となってくれることと思います。

2．この本は著者・中川さんが研究者としての情熱をもって、豊富な情報・資料を基に書かれたものだということがよくわかるので、“知床入門”に最適な読み物と言えます。しかしこの本が書かれるためにはひとつの条件、あるいは背景といったものが必要かつ有効であったと思います。すなわち“一研究者としての中川さん”ということのほかに「知床博物館長 (としての中川さん)」であることが対象地域との関係からして、実に適任の方であったということです。

なおそれと同時に、博物館・協力会・自然センターなど多くの方がたとの共同作業の成果でもあったろうことも忘れられないことでしょう。

3．本文内容について1件だけ触れますと、194 頁には「自然観察会」、「知床自然教室」など知床の自然を守ろうとする皆さんのことが説明されています。TVやPCなどから得られるヴァーチャルな知識は、ただそれ限りのものであるなら、修得したことの満足感は実体験から得られたものには遠く及ばないでしょう。口絵 35 の写真は雄大な実例として誰にも「うらやましい限り」という気持ちをひきおこさせると思います。さらに、斜里高等学校では「知床自然概論」という授業が行われているそうですが、“世界遺産”を丸まる実地の教材にしているということで、おそらく「日本一ぜいたくな学習ができる学校」だと宣言 (すこしオーバーかな？) してもよいような気がしました。

木暮翠さんにはお忙しい中、この本に目を通していただき、また、感想までお送りいただきました。厚くお礼申し上げます。木暮さんは千葉市にお住まいですが、鱗翅目 (蝶の仲間)、特にベニヒカゲの研究で知られている方で、調査のために知床にもしばしばおいでいただいています。この本には昆虫類や小型哺乳類などの項目も入れる予定でしたが、新書版ということもあってページ数が足りなくなり、やむなく見送らざるを得なかった経過があります。同様に引用文献等も載せることができませんでした。幅広く網羅した内容にはなりませんでしたが、「ジュニア新書」の目的である「若い世代対象の入門書」という性格に免じてお許しいただければと思っています。なお、木暮さんにも書いていただいたとおり、知床の解説には便利に使える本と思いますので、広く会員の皆様にも活用いただければ幸いに存じます。ありがとうございました。（中川 元）

発行　斜里町立知床博物館協力会　2007.2.14
099-4113　北海道斜里郡斜里町本町49
斜里町立知床博物館内
TEL:0152-23-1256　FAX:0152-23-1257